

8 麻疹 はしか

1 病原体名

麻疹ウイルス

2 年齢層

全年齢

3 潜伏期間

約 10～12日間

4 症状とケア

- ✓ 38℃の発熱、せきや鼻水などの風邪症状が2～3日続いた後、39℃以上の高熱とともに全身に発疹が広がります。
- ✓ 合併症は、肺炎、中耳炎があります。まれに失明、脳炎や、ごくまれに亜急性硬化性全脳炎という難病を数年後に発症することがあります。
- ✓ 患者と接触した後に症状が出たなど、麻疹の可能性があったときは、受診する前に必ず医療機関に電話で連絡しましょう。受診する時はマスクを



着用し、公共交通機関を使わないようにしましょう。

- ✓ 解熱後、3日を経過するまでは学校へは出席停止です。

5 診断と治療

- ✓ 症状や血液検査などから診断します。診断後は保健所が感染経路やまわりの人への拡がりについて調査します。
- ✓ 特別な治療方法はなく、対症療法を行います。

6 家庭に持ち込まないために

- ✓ 感染経路は空気感染で、とても感染力が強いです。
- ✓ 唯一の予防方法は予防接種です。麻しん・風しんの混合ワクチンを、1歳と小学校入学の前年の2回、定期接種で受けることが重要です。
- ✓ 海外では流行中の国も多く、輸入感染症としても重要です。日本人で感染した人の多くは、ワクチンの未接種者又は1回のみの接種者です。母子健康手帳で接種歴が不明な場合は、追加接種を検討しましょう。

7 家庭で拡げないために

- ✓ 感染者と接触後 72時間以内にワクチンを打つことで、発症を予防できる可能性がありますが、100%ではありません。事前の予防接種が最も重要です。